

# 図書館かがわ

—香川県立図書館報—

第142号

新館開館30年記念号

2024年3月



高松市番町の旧館（現：アイパル香川）

『香川県立図書館』

香川県立図書館／編，発行 1963

## —香川県立図書館は令和6年3月に新館開館30年を迎えます。—

香川県立図書館は、平成6年(1994)3月28日、高松市番町から林町に移転し、新館が開館しました。令和6年(2024)3月28日に30年を迎えます。また、昭和9年(1934)4月に香川県立図書館が設置されてから90年の節目の年になります。

県立図書館は、県民のみなさんがいつでも気軽に利用できる身近な図書館をめざし、利用者サービスの向上に努めてきました。県内市町立図書館や関係機関・団体と連携協力し、地域や

住民の課題解決を支援する機能の充実を図り、県民のみなさんの調査研究活動を支えています。

さらに、子どもの読書活動、特に読書習慣の定着が課題となっている中・高校生等の読書活動を推進するなど、生涯にわたる読書活動の普及・促進に努めています。

今後も県立図書館をよろしく願います。



現在の香川県立図書館

### 記念展示開催中

～新館開館30周年記念展示～

## Look back 香川県立図書館!

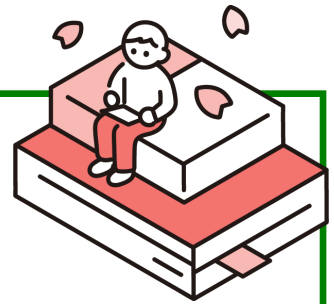
新館開館以降の香川県立図書館の沿革、開館当時の様子や世相が分かる資料、また、当館が近年取り組んでいる事業や、新システムで開始した新しいサービスを紹介します。

期間: 令和6年3月5日(火)～4月21日(日) ※開館時間中、自由にご覧いただけます。

場所: 香川県立図書館 1階閲覧室 展示コーナー

30年間に県立図書館を利用してくださったみなさんに、県立図書館の思い出を書いていただくコーナーがあります。ご来館の際には、ご参加ください。

## 図書館ではたらく人 ～「レファレンス日誌から 番外編」～



「図書館の司書になるにはどうしたらいいの？」レファレンスカウンターでしばしば受ける質問です。

このようなお問い合わせのときは、例えば、司書の仕事について書かれたものでは、『司書になるには』（森 智彦／著 ペリカン社）、『新編 図書館員への招待』（塩見 昇／編著 教育史料出版会）などを紹介、また、文部科学省のホームページには司書になるための資格の取り方など、最新の情報が掲載されていることを案内します。

図書館の司書とは、図書館固有の専門的な仕事に携わる職員のこと。この『図書館かがわ』で連載している「レファレンス日誌から」に登場する、皆さんの調べもののお手伝いをするのも司書の仕事です。

とは言え、図書館の職員がカウンターの奥でどんなことをしているのか、わかりにくいですよ。司書の一般的な印象は、本が好きな人がする仕事、本がたくさん読めていいね、本の倉庫の番人？などでしょうか。確かに本が好きなことも大事だけど、それだけではないのですよ・・・というのが筆者の気持ち。

昔から司書は自己アピールが苦手といわれてきました。図書館のことを知ってほしいけど・・・ところが、最近は図書館で働く人たちが発信する本、図書館のお仕事本もたくさん出版されています。

例えば、

『100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集』（福井県立図書館／編著 講談社）

『魔女っ子司書の自由研究』（八巻 千穂／著 郵研社）

『司書になった本の虫』（早坂 信子／著 郵研社）

『行政マンとして図書館員が忘れてのこと』（内野 安彦／編著 樹村房）

司書の勉強をするときに「図書館は成長する有機体である。＊」という言葉学びます。県立図書館は新館開館から30年、旧館の頃と比べると量も質も大きく変わりました。そして、これからも増加し変化する資料（情報）と大勢の利用者の皆さんとともに、図書館で働く私たちも成長し続けるのです。

（＊）インドの図書館学者ランガナタン博士が提唱した「図書館学の五法則」の第五法則